

## 保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 こうほうえん
施設名	キッズタウンむかいはら保育園
報告者(役職)	稲 葉 穂 ( 園長 )
住所・連絡先	東京都 板橋区向原 3 - 7 - 7
	☎ 03-5917-0752 E-mail inaba@kohoen.jp

○タイトル (保育計画)

心も体も元気な子ども

○主な助成備品

すべり台、巧技台、マット、ままごとセット、お茶用具

### 1. 保育計画策定の目的

子どもたちの取り組む活動が、保育士からやらされるものでなく、自由な環境の中で生き生きと主体的に展開できるよう環境作りに努めています。

遊びを発展させる中で、子どもの興味・関心は、果てしなく拡がり、「なぜ?」「どうして?」の気持ちと共に、驚きや感動が繰り返され、豊かな感性や創造性が芽生えています。

遊びは、子どもの生活の全てで、発達に応じた遊びを繰り返すことで、「心も体も元気な子ども」に育っていきます。

保育士は、子どもの気持ちに寄り添いながら、今、遊んでいることが過去のどのような経験から生まれてきたもので、又、これからの活動にどのように繋がっていくかについて見通しを持って動けるよう支援を行っています。

遊びには、遊具や玩具などの教材が必要です。

「心も体も元気な子ども」を育てるために、本助成事業は大いに有効で、子どもたちの豊かな遊びを支えてもらっています。

「心も体も元気な子ども」の根底には、「生きる力」が育まれています。

「あっできた!」「あっわかった!」という感動が自信になり挑戦する心や知的好奇心を揺り動かし、次の感動をひき起こす時、子どもの心に「生きる力」が育っているなど実感しています。

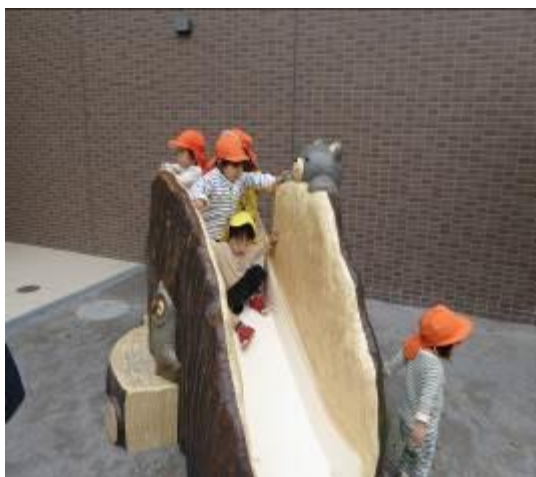
保育士は、日々保育する中で、人的環境と共に物的環境の重要性も確信しております。実践効果の上がる遊具、玩具は、子どもの心に「やる気」「自主性」「思いやり」「優しさ」「協調性」「冒険心」などを育てる原動力

になっています。

## 2. 具体的な実施内容

### (1) すべり台

子どもは戸外遊びが大好きです。園庭に砂場しかありませんでしたが、すべり台を設置することができました。玄関を出ると、すぐにすべり台があり、天気の良い日は毎日遊んでいます。



### (2) 巧技台（すべり台）

持ち運びができる遊具なので、園庭やホールで使用しています。すべり台の高さも自由に変えられるので、0歳児クラス～5歳児クラスまで遊べます。運動会で各クラスが、発達に応じたプログラムを組んで、活用しました。日頃の体育遊びの一つとして保護者に成果を披露しました。



### (3) ごっこ遊びの用具

室内遊びの王様はごっこ遊びです。見立て遊びを楽しんでいます。



### (4) お茶セット

5歳児クラスで「お茶」を週2回程度行っています。師範の免許を持っている非常勤職員が指導しています。敬老の日に高齢者の方にお茶を振る舞いました。最後は5歳児の保護者会で親に振る舞い、稽古の発表の場としました。



## 3. その成果と評価

(1) 遊具や用具を使って体の諸機能を十分に動かすことにより身体の調和的な発達を促すことにつながっています。

子どもは戸外活動が大好きです。天気の良い日は園庭で遊んだり、散歩に出かけたりしますが、固定遊具や用具、玩具で遊ぶことも喜び、すべり台に登ったり、すべったりすることや鉄棒にぶら下がったり、逆上がり

をするなど、物的環境が整備されていると、自分の能力に合った遊び方を  
して、身体能力を高めていきます。

固定遊具が一つもなかった園庭にすべり台が設置されたことで、園全体  
が華やかになり、子どもたちの心も体も健康的に育っています。

また、巧技台は年齢により、高さも調節でき、発達過程に応じた遊びが  
展開できています。

(2) 象徴機能を発揮し、様々なごっこ遊びを行うことで、想像力や創造  
力を培っています。

子どもは、これまで経験したことやイメージしたものを遊具などに見立  
ててごっこ遊びを展開していきます。ごっこ遊びの代表は、ままごと遊び  
で、年齢が高くなると友だちと役割を決めて遊ぶ姿も見られます。ごっこ  
遊びを重ねることで、象徴機能は益々発達し、想像力や創造力の育ちに繋  
がっています。

(3) お茶をやることで、日本文化に親しみを覚え、自分とは異なる文化  
を持っている人たちへ関心をもつようになっていきます。

お茶を通し、行儀作法を身につけたり、お菓子を買に行き活動を通し  
て地域やお金に興味を持つようになってきています。

お茶は、5歳児クラスのみ行っているのですが、他のクラスは5歳児になっ  
たら自分たちもできると楽しみにしています。

また、本園には外国籍の子どもも在園していて、様々な文化があること  
を知り、文化の違いに興味を持つきっかけとなっています。

異なる文化を持つ人との関わりは、子どもばかりでなく、保育士にもよ  
い経験となっています。

(4) 地域の子育て支援や高齢者との交流がより充実するようになりました。  
た。

毎週、月曜日と火曜日の午前10時～11時まで、地域の子育て支援を  
行っています。保育園に在園していない地域の親子が毎回20組程、遊び  
にきています。専門スタッフが対応していますが、本事業で購入してもら  
った巧技台やすべり台で楽しく遊んでいます。

また、5歳児は敬老の日に地域の高齢者や在園児の祖父母を招待して「お  
茶会」をやっています。希望者が100人近くになり、2日間に分けて開  
催しています。

## 《 地域の子育て支援 》



## 《 高齢者とのお茶会 》



## 4. 今後の課題と展望

本事業の支援のお陰で、より豊かな環境構成が可能になり、保育園での子どもたちの生活が充実しています。

子どもは、心や体を動かして生き生きと園生活を送っています。

備品は、子どもたちが関わりたくなるように魅力ある環境の一部にしなければいけないと思っています。

今後、本事業を「地域の子育て支援」や「高齢者との交流事業」に更なる活用を企画し、保育園の社会的責任も果たしていくことを課題とします。

物を大事にすることを子どもたちに知らせながら、本事業への感謝を忘れないために、記念写真は永遠に掲示板に貼り続けたいと考えています。

以上